

■論文の体裁

○ ファイル形式

原稿は Microsoft Word で作成する。他のソフトウェアを使用する場合は、Text 形式で保存する。図表に関しては他のファイル形式も可とするが、印刷時には白黒印刷になることに留意する。

○ 書体

ひらがな、カタカナ、漢字、句読点と本文（和文）中の括弧は全角で、それ以外（数字、アルファベット、記号）は半角にする。数字にはアラビア数字（123…）を使用する。

全角文字については、太字および斜体は使用しない。また、本文・図表とも、機種依存文字や特殊文字の使用は避ける。

○ 句読点

和文の本文中では、「、」と「。」に統一する。句読点以外の「.」「,」「:」「;」などは、すべて半角とする。

○ 章立て

章・節につける番号は、1. …、1. 2. …、1. 2. 1 …とする。

○ 書式

本文の作成には A4 判用紙を使用し、横書き、新仮名遣い、新字体使用を原則とする。

文字サイズは 12 ポイントで、行間は 2.0（ダブルスペース）に設定する。

○ 注

本文中での注は、Microsoft Word の「脚注」機能を使用する。テキスト形式の場合には、本文のあとに番号順に並べる。注の数は最小限にとどめること。

■表紙

投稿原稿の種類（原著、資料、総説、臨床報告、実践報告、書評）を明記した上で、以下の事項を日本語と英語の両方で表記する。ただし、英語論文の場合は、抄録とキーワードは英語のみ。表紙に含まれる事項は規定字数に含まない。

- (1) 表題・副題
- (2) 著者名（全員）
- (3) 所属機関名（全員）
- (4) 抄録（和文 400 字以内、英文 300 words 以内）
- (5) running title（40words）
- (6) キーワード（5 語以内）

○所属機関名の書き方

*¹⁾ 第 1 所属名 *²⁾ 第 2 所属名 *³⁾ 第 3 所属名 …

とし、著者名に上付きで所属名の記号（* 1）、* 2）…）を入れる。

- a. 著者名の表記の例

日本太郎*¹⁾ *²⁾、桜花子*³⁾、・・・

なお、投稿時と掲載時の所属が異なる場合は、筆頭著者のみ、現在の所属を次のように付記する。

*¹⁾ 第1所属名 (投稿時) #¹⁾ 第2所属名 (現在) *²⁾ 第3所属名 ・・・

b. 追加の所属の表記の例

日本太郎*¹⁾ #¹⁾、桜花子*²⁾、・・・

■本文

- 言語は日本語または英語とする。
- 外国の人名・地名は原語表記とし、薬品・試薬名は一般名の英語表記を用いる。その他の学術用語や専門用語は日本語表記を用い、必要な場合は初出箇所に原語及び略語を（ ）で付記する。再出箇所では略語表記も可とする。
- 計量単位は、国際単位系 (SI)を用いる
- 人名には、原則として敬称や肩書をつけない
- 本文中における文献の引用
 - ・ 文献引用はハーバード方式に従う。
 - ・ 本文中では、著者名と出版年を示す。なお、区切りの記号としてはテンではなく、コンマを用いる。
 - a. 文頭の例：
松井 (1997) は...
 - b. 文末の例：
...といわれている (Fulton, 1987)。
 - ・ 共著の場合は引用ごとに両著者の姓を書く。著者姓の間は、日本文中の日本語では中黒 (・)、英語では “&” で結ぶ。
 - a. 文頭の例：
Payne & Relf (1994) は...
 - b. 文末の例：
...した (藤崎・西山, 2006)。
 - ・ 著者が3人以上のときは、第1著者の姓の後を、日本語表記では “ら”、英語表記では “et al.” と略す。
 - 例： 西川ら (2001)は...
 - ...した (Davis et al., 1998)。
 - ・ 同一箇所に2つ以上の文献を示すときは、（ ）内に著者姓のアルファベット順に並べ、セミコロンの (;) で区切る。
 - 例： ...した (Kessler, 1987; 戈木, 1999)。
 - ・ 同一著者の文献が複数ある場合には、コンマで区切って年次順に並べる。
 - 例： 平山 (1996, 1997) は...
 - ・ 同一出版年のものについては、出版年の後に a, b, c, ... を付して区別する。
 - 例： ..した (河合, 1997a, 1997b)

■図表

- 図は、 **Figure 1**、 **Figure 2** あるいは図 1、図 2 のように、表は、 **Table 1**、 **Table 2** あるいは表 1、表 2 のように通し番号をつける。
- 挿入希望位置を原稿の右余白に指定する。印刷の都合上、指定通りにならない場合もある。
- 図・表・写真は各々につき 600 字として換算する。
- 写真・図表は、印刷時にはカラーではなく白黒とする。
- 図表を引用する場合は、図表のタイトルの後に (〇〇, 2002) のように記載し、引用文献として明示する。ただし、あらかじめ著作者に転載の許可を得ておく。

■倫理的手続き

- 本文中に「倫理的手続き」として、対象者の同意を得た方法や、研究論文に関しては倫理委員会の承認および承認番号について明記する。
- 資料の二次的使用については著作権者の許諾、その他必要と思われる事項を記載する。
- 助成・寄付を受けて実施した研究や活動などについては、その旨を記載する。
- 事例の記述においては、匿名性の確保に努める。
- 下記のものについては、倫理委員会の承認を必要としない。それ以外は、原則、倫理委員会の承認を必要とする。判断に迷う場合は、必ず編集員会に問い合わせをすること。
 - 1) 事例報告 ただし、対象者の同意は、文書（不可能な場合は口頭）で必要。
 - 2) 実践報告
 - 3) 広く一般に公開されているデータベース等からの情報を用いたもの

■引用文献

- 引用文献は APA スタイルにて、必要最小限なもののみ掲載する。なお、引用文献は規定の文字数に含む。
- 文献の記載順
 - ・ 本文及び図表で引用した文献は、本文の後に日本語・外国語のものを分けずに一括して、筆頭著者名（姓）のアルファベット順に、番号を振らずに記載する。列挙する文献は引用したものに限る。
 - ・ 同一著者の文献が複数ある場合は、早い年次のものから並べ、同一出版年のものは、本文中で出版年の後に付した a, b, c, ... の順に列挙する。
- 著者名の記載
 - ・ 著者名は、日本文では姓名を書く。姓と名を分けるほうがよいときは、間を一字あける。英文では、姓、コンマ、半角スペース、名のイニシャル、ピリオドを記す。イニシャルでは不十分のときは、名を略さずに書く。
 - ・ 共著の場合、著者の間を、日本語では“・”（中黒）、欧語では半角スペースの後“&”（3人の場合はコンマと半角スペースで区切り、最後の著者の前にコンマと半角スペースの後に“&”）を入れる。4名以上の場合は3人目まで書き、後は「他」もしくは「et al.」とする。
 - ・ 団体や機関名義のものは、名称を略さずに書き、個人名と同様にする。

- ・新聞・雑誌記事の引用は、著者が不明な場合は記事タイトルあるいは見出しを先頭におく。著者が明らかな場合は、著者名、記事タイトルの順で記載する。新聞・雑誌記事の場合は出版年だけでなく、月日も表記する。

○ 逐次刊行物の記載

- ・著者名、刊行年、表題、誌名、巻数（号数あるいは通し番号）、掲載ページを示す。掲載ページは、文献の最初と最後のページをハイフン（-）で結ぶ。学会抄録を引用した場合は、誌名の箇所に抄録集名を記す。

例：

松島たつ子・赤林 朗・西立野研二 (2001). ホスピス緩和ケアにおける遺族ケア：遺族ケアについての意識調査と今後の展望 心身医学, 41(6), 429-437.

Parkes, C. M., Benjamin, B., & Fitzgerald, R. G. (1969). Broken heart: A statistical study of increased mortality among widowers. *British Medical Journal*, 1, 740-743.

- ・印刷刊行されることが確定しているが、未刊である場合には（印刷中）もしくは（in press）と記す。なお、原則として公刊されることが確定していない論文の引用はできない。

○ 書籍の記載

- ・和文書籍の場合は、著者名、刊行年、表題のほか、版数、出版社名を書く。欧文書籍の場合は表題の後、版数、出版地、出版社名を書く。

例：

小此木啓吾 (1979). 対象喪失. 中公新書.

Parkes, C. M. (1972). *Bereavement: Studies of grief in adult life*. New York: Penguin Books Publishers.

- ・著書・編集書・監修書の特定章の場合、日本文では、章題目、編著者名、書名、出版社、“pp.”の後、掲載ページを書く。英文では、“In”につづいて編著者のイニシャルを先に書き、ピリオド、一字あけて、姓を記す。その後、書名、出版地、出版社、“pp.”、掲載ページを示す。

例：

平山正実 (1997). 死別体験者の悲嘆について：主として文献紹介を中心に 松井 豊(編) 悲嘆の心理 サイエンス社 pp.85-112.

Silverman, P. R., & Klass, D. (1996). Introduction: What's the problem? In D. Klass, P. R. Silverman, & S. Nickman (Eds.), *Continuing bonds: New understanding of grief*. Washington, DC: Taylor & Francis. pp. 3-27.

- ・翻訳書の場合は、まず原著を引用し、（ ）内に訳書に関する情報を示す。

例：

Parkes, C. M., & Weiss, R. S. (1983). *Recovery from bereavement*. New York: Basic Books.

(池辺明子(訳) (1987). 死別からの恢復 図書出版社)

- ・ ウェブ・ページの引用の場合には、アドレス及びアクセスした日を記す。

例：

警察庁生活安全局生活安全企画課 (2009). 平成 20 年中における自殺の概要資料
http://www.npa.go.jp/safetylife/seianki81/210514_H20jisatsunogaiyou.pdf (2009 年 9 月 29
日閲覧).